

事業所名 グループホームいやしの家福吉町
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成20年 3月31日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 高等学校非常勤講師
資格・経験 看護師、社会福祉主事、福祉住環境コーディネーター
B:現職 社会福祉法人生活指導員
資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、ホームヘルパー2級、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

・近くには児島湾や岡南大橋がある閑静な住宅地に立地し、バス停も近い。グループホームの隣には公園や福祉施設があり、利用する地域住民との交流の場となっている。開所当時より地域住民の受け入れも良く、花の苗を持って来てくれたり、ビデオを観てくださいと持って来てくださる方もある。婦人部の方との交流もあり、毎年の町内の夏祭りには招待を受けている。ホーム長が元地域の住民で、現在も近くに住んでいるということもあり、地域の特性をよく把握した上で、協力が得られるような関わり方を大切にしており、地域との良い関係が保たれている。

・オーシャンブルーでフェンスの一面が覆われている広いウッドデッキと広い菜園がある。天気の良い時には青空のもとでお茶を飲んだり、菜園には季節の野菜を植え、入居者の活動の場となっている。庭や公園などでの自然との触れ合いが、入居者の癒しの場となっている。

・家族がいらない入居者が多いが、第2の我が家として入居者と職員が家族のように暮らし、孤独にならないように支援している。入居者一人ひとりのこれまでの生活を大切に、入居者の本来の良さを引き出せるよう個別の支援を心がけている。入居者は思い思いの方法で日々を穏やかに過ごしている。

・医療機関やデンタルクリニックとの連携がよく取れており、医療面で安心が得られるホームである。看護師が毎週訪問し、入居者の健康状態を観てくれる他、歯科医と歯科技工士も毎週訪問し、入居者一人ひとりの口腔の状態をチェックしたり、口腔体操の指導などをしてきている。母体が調剤薬局であるため、薬に対する管理も行き届いている。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

・昨年の外部評価の結果を受けて運営推進会議が1回開催されたが、その後が諸事情により延期されている。今後は、できれば2ヶ月ごとに開催し、内容も参加者の意見を聞きながらサービスの向上が図れるような会議としていただくよう提案する。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> 入居者一人ひとりの入居前の生活を元に、ホーム内でも自由な生活ができるように支援している。 医療との連携を取りながら、質の高いケアを提供できることをめざしている。 身寄りのない方が多いグループホームであるが、職員や入居者同士のコミュニケーションにより、孤独感を癒しながら安心の生活を提供できることをめざしている。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> 職員は、自分の親に接するような気持ちで入居者に接している。職員と一つの家族のように接して安心感が得られているためか、入居者は穏やかに暮らしている。 入居前の生活を元に入居者一人ひとりの生活リズムを尊重し、個人との関わりを大切にしている。一緒に歌を歌ったり、DVDを観たり、本を読んだり、その人にとって落ち着く方法を見つけ支援している。畳のスペースに置かれたこたつで横になって過ごしたり、ソファで入居者同士でゆったりと過ごしている。 入居者一人ひとりが出来そうなことを見つけ、生活の中で何らかの役割を持って過ごせるように取り組んでいる。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> プライバシー保護のため、浴室の閉鎖時には衝立を使用する、更衣時には居室のドアを閉める、排泄の誘導時には排泄に関する言葉はできるだけ使わず、「そろそろ、どんかなあ」等と言葉をかける配慮をしている。 日々の関わりの中から、入居者が得意であったことや、新たに出来るようなことを見つけ、取り組めるように支援している。小さい頃から縫い物をしてきた男性入居者が雑巾を縫ったり、入居後に職員と一緒に掃除を始めて得意になり、現在は毎日ホーム内の掃除を積極的にしてくれる入居者がいる。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> 研修会に参加したら他の職員に伝達し、聞いた職員は全員報告書を提出して自分のものとなるようにしている。 本社では、介護の方法などについて定期的に勉強会を開催しており、職員も可能な限り参加している。 介護福祉士など、専門職者としての資格取得のため自己研鑽している職員が多い。 ヒヤリハットや事故について報告書を作成し、予防や再発防止に向けて研修会を開催している。 		